



抜粋

令和 2 年度 第 2 回石狩市民図書館協議会資料

教育委員会の点検・評価報告書

(令和元年度分)

令和2年 10 月
石狩市教育委員会

点検及び評価について

1 教育委員会の点検・評価報告書について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとなっています。

石狩市教育委員会（以下「市教委」という。）は、市民への説明責任を果たすとともに、より効果的に教育行政を推進するため、令和元年度の教育委員会の活動状況及び主要な施策・事業について点検・評価を行い、教育に関し学識経験を有する方々による「石狩市教育委員会外部評価委員会」の意見を踏まえ、「教育委員会の点検・評価報告書（令和元年度分）」としてまとめました。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検及び評価の対象について

令和元年度の教育委員会の活動状況のほか、教育委員会において実施した施策・事業等を対象としています。

3 点検及び評価の手法と方針について

教育委員会会議の開催及び審議の状況など、教育委員会の活動状況を明らかにするとともに、教育に関する事業を個別に評価し、課題を踏まえ、今後の改善に向けた方針を明らかにしています。

4 学識経験者の知見の活用について

教育委員会の活動状況や教育に関する施策・事業の執行状況の点検・評価の客観性を確保し、今後の取組への活用を図るため、教育に関し学識経験を有する方々から、点検及び評価に対する意見や助言をいただき、本報告書に付して報告します。

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価

1 教育委員会の活動状況

教育委員会の会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び石狩市教育委員会会議規則に基づき、教育長と4人の委員が、付議された議案・報告案件及び協議事項・報告事項について、委員相互の入念な審議・協議・意見交換などを経て決定しています。

会議（毎月の定例会）においては、従前と同様に、主要な教育施策の確立、変更及び実施に関すること、教育委員会規則の制定、その他付議された議案について審議決定するとともに、教育に関する様々な協議事項・報告事項等について、委員相互による活発な協議が行われています。

また、市民が教育行政に関心を持っていただけるよう、市ホームページや、市役所本庁舎情報公開コーナーなどで会議録を公開して、市民の理解に努めています。

なお、これまでの石狩市教育プランは、平成22年4月にスタートし、令和2年3月までの10年間をもって終了となることから、教育委員会会議において協議を重ね、令和2年3月に新教育プラン（令和2年～6年度）を策定しました。さらにプランに基づく施策等を着実に実施するため、様々な教育課題や具体的取組などについて都度協議するほか、教育現場の視察や関係者との意見交換を行っています。

（1）教育委員会会議の状況

教育委員会会議については、石狩市教育委員会会議規則第2条第2項の規定に基づき定例会を開催、また同条第3項の規定に基づき、必要に応じて臨時会を開催しています。

令和元年度については、下記のとおり合計16回の会議を開催しました。

また、会議以外に施策に関する勉強会も月1回の定期及び必要に応じて実施し、様々な課題等について意見交換を重ねています。

- ① 定例会 12回（毎月1回）
- ② 臨時会 4回（8月1回、10月1回、3月2回）

2 教育に関する事業の点検及び評価

【令和元年度の取組概要】

石狩市教育プランに掲げる基本構想（重点テーマ）や施策（大項目）に基づき、市教委は、令和元年度の各種事業を実施しました。

その中でも、令和2年度から5年間の石狩市の教育を推進する指針となる「新教育プラン」の策定や、平成27年度より進めてきた厚田区及び本町・八幡地区の学校統合事業の最終年度として、石狩管内初の義務教育学校となる厚田学園の新校舎建設や、新たな統合校・石狩八幡小学校の開校のための必要な施設改修を行い、子どもたちの教育環境を整備しました。

また、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）については、上記2校の開校準備と並行した協議のもと、令和2年度に先行導入し、令和3年度からの市内全校への導入に向けた取組を進めました。

さらには、令和2年度からの新学習指導要領に対応した授業が適切に行われるよう、教職員研修や加配教員、外部指導者等を配置する等の人的支援のほか、市内学校の全普通学級に電子黒板を設置（令和元年度から3年度の3か年で導入）し、充実したICT教育を展開するための環境整備を進めました。

これらの市教委の主な事業は、ソフトとハードの両面から行ったものであり、今後の石狩市の教育を展望する上で大変重要かつターニングポイントとなる取組であったと考えております。

そのような中、令和2年2月以降、道内での感染拡大が始まった「新型コロナウイルス感染症」によって、市教委は、市内の学校や社会教育施設での感染防止のため、道教委等と連携して一斉休校や各施設の利用を中止する等措置を講じてきました。これにより様々な学校行事が中止や規模縮小となるほか、授業時数を確保するための対策が求められる等、いわゆるコロナ禍は、現在も学校運営や市民の学び活動に多大な影響を及ぼしています。市内の各学校では、国や北海道が示す新しい生活様式に留意しながら、子どもたち一人一人に対する感染対策の指導が行われているほか、子どもたちの学びの保障のための取組が急務となっています。

【事業の点検・評価】

今年度（令和元年度）分の教育に関する事業の点検・評価について、市教委では、令和元年度の教育行政執行方針と予算（参照 資料1）、及び石狩市教育プラン後期基本計画に掲げる指標に関連する施策等について、教育プランの施策体系に基づく施策（大項目）ごとに取組状況を点検し、分析・評価を行っています。

施策別の取組状況、分析・評価及び今後の方向性（一覧）

基 本 構 想（重点テーマ）	施 策（大 項 目）	図書館 該当
1. 自ら学ぶ意欲を育てる教育	1－1 生きる力につながる確かな学力を育む教育の充実	
	1－2 一人ひとりを大切にした教育活動の充実	
	1－3 独自性が発揮できる魅力ある学校づくりの推進	
	1－4 学校教育を推進する環境の充実	
2. 思いやりと豊かな心・健やかな体を育む教育	2－1 豊かな人間性と感性を育む教育の推進	○
	2－2 心身の健やかな成長を促す教育の推進	
3. 地域で育ち・学び・生きる教育	3－1 次代を担う子どもたちの健やかな育ちの支援	
	3－2 地域づくりに活かされる生涯学習環境の充実	
	3－3 学習の拠点としての図書館サービスの充実	○
	3－4 石狩文化の活用による自主的・主体的活動の支援	
	3－5 ふるさとを学び伝える取組の充実	

教育プラン基本構想 重点テーマ2 思いやりと豊かな心・健やかな体を育む教育

施策（大項目）1 豊かな人間性と感性を育む教育の推進

●大項目のねらい

「確かな学力」や「健やかな体」とあわせ、「豊かな心」を育むにあたり、その出発点となる家庭の役割の重要性を市民全体でしっかり理解し、市民ぐるみの取組が進められるよう、体制の整備を進めます。

学校においても「心の教育」、「情操教育」、「豊かな感性」、「コミュニケーション能力」を育む教育活動を推進するとともに、いじめ等の問題行動・不登校などに対し、一人ひとりを大切にしたい支援を行う体制の充実を図ります。

また、子どもが言葉を身につけ、感性を磨き、表現力を高めるために欠くことのできない読書活動を推進するため、すべての子どもがあらゆる機会と場において、本に興味、関心を持ち、読書活動を行うことができるよう、環境の整備を図ります。

中項目2 子どもの読書活動の推進（担当：市民図書館）

指標の名称	単位	プラ掲載実績 (H25)	参考値					実績値	目標値
			(H26)	(H27)	(H28)	(H29)	(H30)	R01	R01
学校図書館図書標準達成校数	校	小 2 中 3	小 5 中 2	小 6 中 2	小 5 中 2	小 8 中 3	小 9 中 3	小 8 中 3	全校
H25～H29 「読書が好き」と回答した児童生徒の割合 R01～ 読書をしている小6、中3の割合	%	小 73.7 中 74.1	小 73.7 中 74.1	小 65.8 中 68.6	小 68.3 中 73.5	小 63.6 中 69.3	調査項目変更	小6 57.3 中3 45.8	78.7

分析評価

市教委独自の図書標準及び、全校への図書費特別加算に関する考え方等を学校図書館担当者会議で周知することにより、計画的な蔵書冊数の増加及び更新が進んでいる。

方向性

中学校については、数校掛け持つ体制で学校司書を配置し学校図書館の整備を進める。中学校の全校図書標準達成は数年かかる見通し。

小項目① 子どもが本に親しむための機会の提供

【本に親しむための機会の提供】（担当：市民図書館）

取組状況

事業名	回数	内 容
ブックスタート	月1回	R01年度のバック配付数 253セット [H30年度 288セット]
ブックスタート フォローアップ	月1回	R01年度のバック配付数 10セット [H30年度 19セット]
おはなし会	全58回	R01年度の参加者数 695人 [H30年度 全74回 1,175人]
DVD上映会	全12回	R01年度の参加者数 129人 [H30年度 全12回 149人]
家読（うちどく）	年3回	R01年度のリスト配付数 437冊 [H30年度配付数 469冊]
調べる学習コンクール	年1回	R01年度応募状況 小学校11校 204点 中学校3校 297点 [H30年度応募状況 小学校12校 83点 中学校2校 262点] 受賞作品数：最優秀賞4点 優秀賞9点 佳作12点 奨励賞14点 全国コンクール受賞作品：佳作8点 奨励賞2点

分析評価

- ・ 1 歳 6 か月健診時でのブックスタートフォローアップ個別アンケート結果から、配布した絵本の活用や、家庭での本を介した親子のふれあいが感じ取れる。
- ・ 職員おはなし会の実施回数減により参加人数は減ったものの、各おはなし会への参加リピーターが見られ、参加者の期待感や親子でおはなし会を楽しもうとする様子が伺える。
- ・ 就学時健診でブックリストを配布した後、図書館へ立ち寄る親子の様子も見られ、会場と図書館が近いことによる即時性の効果が見られる。
- ・ 調べる学習コンクールにおいて、中学校の職業調べに関する作品は、100 点以上の応募があり、小学校はもとより中学校にも事業が浸透してきている。

方向性

- ・ ボランティアと職員間の意思疎通、ブックスタートの意義共有を今後も図る。
- ・ 今後もブックスタート事業や、就学時健診でのブックリスト配布等、効果的な周知を図る。
- ・ 今後もブックリスト配布時に、幼児に対する個別の声かけ等を丁寧に行うとともに、健診の待合会場での図書展示等、本に触れるきっかけづくりを行う。
- ・ 学校が配布しやすいような丁寧な仕分けや、学校司書が作品を取りまとめるなど工夫する。
- ・ おはなし会への新規の参加者増をめざし、周知用チラシの配布数を増やすとともに、WEB サイトや Facebook 等でも周知を行っていく。

小項目② 学校図書館の活動の充実

【学校図書館の体制整備、ネットワークを活用した読書支援】（担当：市民図書館）

取組状況

- ・ 小学校への学校司書配置体制整備は完了し、中学校も 2 名体制の巡回配置及び派遣で図書整備を進めた。
- ・ 学校司書を配置した学校では、市民図書館とオンラインネットワーク環境を整備して蔵書検索や取り寄せを行っている。

分析評価

- ・ 中学校担当の学校司書を 2 名体制にしたことで、古い本の除籍や必要な図書の購入など学校図書館の整備が進んでいる。
- ・ オンラインネットワーク環境の整備を進めたことで、市民図書館の蔵書状況を学校図書館においても容易に把握できるようになり、学校図書館の充実につながっている。

方向性

- ・ 中学校担当の学校司書は、2 校で実施している巡回配置を継続し、3 校に対し、派遣から週 1 回の配置へ見直す。
- ・ 今後も引き続きオンラインネットワーク環境を活用し、子どもの興味関心に応じた本や学習に役立つ本を提供していく。

【学校司書の資質向上】（担当：市民図書館）

取組状況

本館職員との情報交換やスキルアップ研修を実施。

分析評価

毎月の学校司書連絡会議による情報交換に加え、今年度新たに学校司書となった職員に対し、ベテランの学校司書が月 1 回の頻度で支援。日常の細やかな業務等に関する悩みにも対応している。

方向性

今後も計画的に研修を実施し、学校司書のスキルの維持、向上を図るとともに、学校司書や学校図書館を効果的に活用いただくよう、教員の理解促進に努める。

=== 石狩市教育委員会外部評価委員会の意見（平成 30 年度の取組に対する意見） =====

○図書館司書と学校司書の連携の強化等、現行の諸活動を充実させ、子どもたちの読書意識のすそ野を拓げる活動を期待する。

=====

施策（大項目）3 学習の拠点としての図書館サービスの充実

●大項目のねらい

図書館は、社会の発展を縁の下で支える施設です。子どもから高齢者まで多くの人々に開かれた施設である図書館は、情報が溢れかえる現代社会においても、市民の人生を充実したものとするうえで、重要な役割を担っています。主体的に学び、活動しようとする人々の思いを受け止め、その実現を支援するため、生涯学習や地域文化の創造、郷土理解の重要な拠点として、市民図書館のサービスの充実を図ります。

中項目1 資料提供や情報発信を通じた生涯学習の支援

小項目

【情報提供機能の強化】（担当：市民図書館）

取組状況

利用者の興味関心に応える特集展示の強化と周知に加え、図書館の資料を使い利用者の調べものをサポートするレファレンス業務に関わる時間を確保するため、図書館司書の体制を見直した。

分析評価

臨時休館によりレファレンス件数及び特集展示の回数は減少したものの、特定の事柄について書かれた資料について調べ情報提供する事項調査の件数に大きな減少がなかったことは、レファレンスの周知が市民に浸透してきたものと考えられる。

方向性

業務にあたる司書のスキルアップを推進し、引き続き市民の学びに寄与する情報提供を行っていく。

中項目2 市民の誰もが利用できるような環境の整備（担当：市民図書館）

指標の名称	単位	プラン掲載実績 (H25)	参考値					実績値	目標値
			(H26)	(H27)	(H28)	(H29)	(H30)	R01	R01
石狩市の人口に占める利用登録者の割合	%	20.4	19.3	18.8	18.1	17.5	16.4	15.2	25.0

市民図書館の利用状況等（花川南、八幡、浜益分館、あいかぜ※含む。）

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01
利用登録者数(人)	22,790	21,617	21,072	20,219	19,501	18,508	17,401
蔵書点数(点)	306,133	314,864	323,528	322,840	324,178	325,766	327,678
貸出点数(点)	555,139	565,456	569,406	556,395	556,906	543,969	473,761

※平成24年11月に厚田分館を廃止し、12月より厚田小学校図書館を地域開放型図書館「あいかぜとしょかん」として地域に開放している。本表には同館の実績を含めて記載。

分析評価

市民の登録割合の減少が続いている。登録者数が減少している要因として、市民アンケートによると、「歳をとって、行くのが大変になった」「本を読まなくなった」など、個人の変化のみならず、当館が図書貸出点数を制限していないため、利用者が自分以外の家族の本も借りていく割合が一定数あることが考えられる。

方向性

平成29年10月に実施した市民アンケートにおける結果を踏まえ、蔵書の充実や施設の良好な環境整備など、適切な対応に努める。

中項目 3 サービスを支える基盤の整備

小項目

【市民協働による事業展開】（担当：市民図書館）

取組状況

事業名	参加者数
ボランティアによるおはなし会	全 66 回、798 人（H30：全 52 回開催、949 人）
ボランティアによる DVD 上映会	全 12 回、129 人（H30：全 12 回開催、149 人）
石狩の古老に話を聞く会	全 6 回、200 人（H30：全 6 回開催、151 人）
第 20 回図書館まつり	4,574 人（H30：5,159 人）
第 9 回科学の祭典 in 石狩	2,036 人（H30：1,200 人）

分析評価

市民やボランティア、関係団体等との協働により、読書活動が推進されたほか、市民同士の交流拠点として、まちの賑わいづくりを図った。H30 年度、天候不良等により参加者が減少した『科学の祭典 in 石狩』については、例年以上の参加者があり、子どもも大人も楽しむことができるイベントとして市民に認知されるようになってきたと評価する。

方向性

市民ニーズの把握において、協働事業は重要であることから、今後も継続的に市民協働による取組を推進するとともに、多くの市民の学びや各種活動、交流の拠点となるべく、取り組む事業を積極的に PR する。

中項目 4 利用者の期待に応える蔵書・情報源の構築（担当：市民図書館）

指標の名称	単位	実績 (H25)	参考値					実績値	目標値
			(H26)	(H27)	(H28)	(H29)	(H30)	R01	R01
市民図書館（本館）の入館者数	人	261,324	236,177	246,199	241,902	240,355	236,080	213,863	300,000
当該年度に受け入れた寄贈資料点数	点	1,677	2,520	2,552	2,481	2,445	2,100	1,730	3,000
地域行政資料の点数	点	27,625	28,314	29,181	29,581	30,223	31,024	31,244	35,000

分析評価

入館者数は 24 万人前後と横ばいの状態を維持してきたが、令和元年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時閉館したため、減少した。

寄贈資料の受入点数は減少したが、地域資料に関しては増加した。

方向性

地域行政資料による歴史の継承及び地元の動きを伝える情報の発信として、継続的に資料を収集、保存、提供するとともに、より活用されるよう特集展示を行うなど、資料の PR に努める。

=== 石狩市教育委員会外部評価委員会の意見（平成 30 年度の取組に対する意見） ===

○市民図書館の機能や現行のサービス（活動）を広く市民に知ってもらうための情報発信を継続されるとともに、「出張貸出」などの一層の充実を望む。

○「図書館のなかにまちをつくる」というコンセプトをもとに、「書籍」を媒体にした図書館利用以外の利用方法も見据えた取組を期待する。

=====

点検及び評価に対する学識経験者による意見について

点検及び評価の実施にあたっては、事業等の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取組の方向性について、内部評価を行うと同時に、学識経験者の知見活用として、「石狩市教育委員会外部評価委員会」から意見や助言をいただくこととしています。

これらにより、点検及び評価の客観性を確保するとともに、いただいた意見等については、今後の施策、事業等の展開に活用していきます。

令和2年10月6日に外部評価委員会を開催し、次の意見等をいただきました。なお、会議録は、石狩市ホームページ等にて公開しています。

意見等の内容

外部評価委員会では、教育委員会の活動や、3つの重点テーマの11ある大項目に基づく施策に関する多くの取組について、評価をいただきました。

なお、本報告書においては、今後の本市教育行政へ参考となる視点や、課題に対する意見などについてのみ以下に掲載しています。

1 教育委員会の活動状況について

○義務教育学校をはじめとする教育環境整備や新型コロナウイルス感染症対応を含め各種事業が的確に実施されたことに敬意を表します。また、今後5年間の新教育プランによって示された目標と方向性が新時代にふさわしい教育の質的向上を目指して推進されることを期待します。

2 施策別の取組状況、分析・評価及び今後の方向性

【重点テーマ2 思いやりと豊かな心・健やかな体を育む教育】

施策（大項目）1 豊かな人間性と感性を育む教育の推進

○学校司書を通じて、学校と連携を取りながら子どもの読書離れの対応策の一層の検討を望みます。

【重点テーマ3 地域で育ち・学び・生きる教育】

施策（大項目）3 学習の拠点としての図書館サービスの充実

○引き続き、図書館の新たな役割を模索し、取り組みの活性化とともに、利用者数の増加を期待します。
○利用者の興味関心を引出す蔵書や資料の展示方法の工夫・充実を望みます。

石狩市教育委員会外部評価委員会委員名簿

(令和元年度)

職 名	ふりがな 氏 名	任 期	所 属 等
委員長	い い よし ひと 伊 井 義 人	平成 30 年 4 月 1 日から 令和 3 年 3 月 31 日まで	藤女子大学人間生活学部 人間生活学科 教授
副委員長	すず き しげる 鈴 木 茂		いしかり市民カレッジ 元教職員
委 員	むかい だ く み 向 田 久 美		一般社団法人アクトスポー ツプロジェクト 代表